

第 2 回 STAMP ワークショップ発表概要

タイトル

IoT/深層学習利用における STAMP と HAZOP についての研究

A study on STAMP and HAZOP in IoT and deep learning application

著者・発表者

名古屋市工業研究所 小川清, ICS 石津和紀、デンソークリエイト 柏原一雄、エー・アンド・デイ 佐藤克、

NMIRI Kiyoshi Ogawa, ICS CO., LTD. Kazunori Ishizu, Denso Create company Kazuo Kashiwabara, A&D Company, Limited Masaru Sato

概要

2006 年 WOCS で Nancy とパネルに出て以来、Nancy の手法を国際規格への対応付けを行って来た。手法に関する国際規格は、抽象的な共通部分を規定しているか、手法の一つの例を示すことにより、他の手法の差分の理解を容易にするためにある。特に、2011 年、WOCS で Nancy を招き、Safewre の講演をいただいた後、STAMP に焦点を絞り、HAZOP 手法との関連を説明して来た。現在工場に IoT 導入の企画を検討しており、その検討での対応関係を示す。なお、HAZOP は企画、設計、出荷、運用の各段階で利用できるが、STAMP は主に設計中心であるため、検討の内容には既存のシステムの分析を含めている。また 2004 年に IPA から発行されたプロセス改善ナビゲーションガイドに掲載されている JAXA のように、多くの手法を組み合わせる実施する組織も多く、FRAM 等の他の手法との関係についても整理した。

キーワード

- (1) STAMP
- (2) FRAM
- (3) HAZOP
- (4) ISO/IEC guide 50
- (5) 設計審査